

# 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

## 地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

### 「元気わくやふれあい町づくり事業」 地域全体で子どもたちの成長を支える (宮城県涌谷町)

#### 取組の概要や経緯

平成22年9月に元気わくやふれあい町づくりサポートセンターを立ち上げ、学校支援本部事業として開始した。支援対象は町内全ての小中学校に展開し、学校支援や放課後子ども教室を地域住民と協働し推進している。平成28年4月から評価検証委員会を立ち上げ、各事業の課題や効果の測定、事業の評価・検証を行っている。

また、令和5年4月には実行委員会の設置要綱も整備し、併せて涌谷町地域学校協働活動推進員の設置要綱も整備している。

#### 内容

放課後子ども教室では、各小学校において、地域学校協働活動推進員が中心となり年10回程度、地域の人材を積極的に活用しながら、様々な体験学習の機会を提供している。学校支援活動では、学校の要請により、学校の授業支援や参観日の見守り、環境整備等を行っている。元気わくやふれあい町づくり実行委員会の地域学校協働活動推進員が学校と地域ボランティアを繋ぎ調整を行い活動を行っている。

#### ポイント

- ①放課後子ども教室は、各小学校の地域性や特性を活かした体験型の事業内容を企画。また、地域人材を積極的に活用することで地域との連携・協働の推進と地域コミュニティの活性化を図る。
- ②元気わくやふれあい町づくり事業の地域学校協働活動推進員が各学校と密にコミュニケーションを取り、支援内容や支援者の検討を行い速やかに調整し支援している。
- ③町内小中学校を訪問し、各種事業の説明を行い事業の理解、活用、情報の共有を図る。

#### 成果

放課後子ども教室において、多種多様な講師による体験機会を創出したことで、参加児童の興味関心が高まり、何事においてもチャレンジする心が芽生えたとともに、高学年がリーダーシップを発揮し、下学年を補助しながら活動する様子も多く見られました。また、支援スタッフやボランティアと児童の交流も深まっており、地域コミュニティの活性化や生きがいづくりにも大いに役立っていると感じています。

学校支援事業においては、学校からの要請により、授業支援(バケツ稲、調理実習・ミシン・くぎ打ち等)、児童の見守り(参観日などの見守り)や環境整備(図書整理等)、読み聞かせなどさまざまなボランティア支援が行われており、地域のボランティアが児童一人一人にサポートすることにより安全な環境のもとに協働教育の連携が図られています。



#### 今後の方向性

- ・令和8年度から全校で、コミュニティ・スクールを導入するため、より学校と地域の連携が求められることから、支援者となる地域人材の育成、発掘に努め、協働教育の推進を図る。
- ・『できる支援をできるときに、できることから』を合言葉に地域住民の協力をもらいながら、よりよい協働教育の推進を図る。